

中嶋哲也『経済発展と格差－簡単な家計モデルによる検討－』現代図書 2015 年

1、目次

はじめに

第Ⅰ部 簡単な家計モデルにもとづく経済モデル

第1章 家計の基本モデル

第2章 経済発展の初期段階における信用市場の役割

第3章 教育による人的資本形成

第4章 人的資本形成と信用市場

第Ⅱ部 企業行動と結合

第5章 日本の高度成長期・低成長期・長期停滞のいくつかの特徴

第6章 労働移転を伴う高成長

第7章 労働移転終了後の低成長および長期停滞

第8章 低成長期・停滞期の所得格差と政策

終章

2、著者紹介

1959 年京都生まれ。1982 年同志社大学経済学部卒業、
1991 年大阪市立大学大学院経済学研究科後期博士課程退学。
岩手大学講師、立命館大学助教授をへて、大阪市立大学経済学部教授。

3、選定理由

1. 経済発展と格差
2. 家計から構成された経済モデル
3. 戦後日本経済の特徴
4. 信用市場の役割
5. 所得と教育の関係
6. 都市と地方の経済発展
7. 労働と高成長の関わり
8. 低成長期・停滞期の経済
9. 低所得家計が直面する困難
10. 所得分配と格差動向